

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

学校が地域等と連携して研修に取り組む実践事例

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

沖縄県那覇市

学校名

沖縄県立真和志高等学校

学校のURL

<http://www.mawashi-h.open.ed.jp/>

### 2. 学校紹介

学級数

1年8学級、2年8学級、3年6学級  
(全日制単位制高等学校、うち単位未履修学級5学級)

児童生徒数

1年251人、2年238人、3年176人 計665人  
(平成23年12月1日現在)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

自己の将来の進路について、自分で考え、自分で判断し、自分の責任で選択できるとともに、他者を尊重し、思いやりのある生徒を育成する。

人権教育にかかる取組の全体概要

「平和教育・人権委員会」を設置して、人権・平和教育に関する授業や講演会、研修会等の計画的・実践的な指導を行い、平和・人権に対する意識の涵養に努めている。

毎月「人権の日」を定め、職員朝会で職員の意識を促す講話などを行っている。

「公民」の授業で人権・平和についての特設授業を行い、人権に対する意識の涵養に努めている。また、6月23日「沖縄慰霊の日」の前後、視聴覚教材などを活用して平和について考えさせる授業を行っている。

「介護福祉コース」では、「こころとからだ」「社会福祉基礎」等の専門科目において、高齢者や障害者に対する思いやりや人間理解を学び、人権に関する理解を深めている。

### 3. 特色ある実践事例の内容

地域や外部講師を活用した自分を大切にする人権の涵養の取り組み

#### 1 取り組みのねらい

本校は、沖縄県内唯一の全日制課程普通科の単位制高等学校である。在籍する生徒の特徴としては、両親の離婚や死別等を要因とする家庭的環境に恵まれない

生徒や発達障害を抱えた生徒が他校に比較して多く、生徒ひとりひとりに対して、個別指導やスクールカウンセラーや外部機関と連携した教育相談体制の拡充に努めている。

このような背景から、生徒と一緒に考えながら、自分のおかれた環境に対して正面から向き合い、自分の意見や気持ちを素直に表現できる自分を大切にすること、人権の涵養の取り組みが求められている。

## 2 取り組みを始めたきっかけ

「平和教育・人権委員会」において、いじめや虐待等の防止に関する人権の涵養の実践的な取り組みについて検討している中で、保護者から「CAP（自分を大切にすること、人権教育、Child Assault Prevention:子どもへの暴力防止）」の取り組みを進められ、「おきなわCAPセンター」を紹介された。

そこで、本校では、「生徒及び教職員の人権意識を涵養する ロールプレイ等の問題解決の手法を通して、家庭内暴力や虐待等への問題解決能力を引き出す。

家庭・地域・学校との連携を図る。」ことを目的として、CAP（自分を大切にすること、人権教育、Child Assault Prevention:子どもへの暴力防止）に関するワークショップを実施することにした。

「おきなわCAPセンター」は、1996年11月に発足した特定非営利活動法人（NPO）で、那覇市を拠点に、沖縄県内各地域、小中高校、特別支援学校、児童養護施設等でワークショップをおこなっている。1997年3月から2009年3月に、ワークショップ計1,658回（子どもワークショップ974回、おとなワークショップ684回）の活動実績がある。（<http://www.okinawa-cap.com/gaiyo.php>）

## 3 取り組みの内容

平成23年11月から12月に、NPO法人「おきなわCAPセンター」から12名の外部講師を招いて「Child Assault Prevention Program（子どもが暴力から自分を守るための教育プログラム：CAP Program）」を実施した。

### （1）高校生向けワークショップの実施

1年生252人を対象に、平成23年11月7日（月）～11日（金）に「Child Assault Prevention Program（CAP）」に沿って、クラス毎に、2時間連続授業を2回、計4時間のワークショップを実施した。

CAPワークショップは、従来の「～してはいけません」という危険防止教育とは異なり、子どもがおそれを抱かずに、いじめ、誘拐、虐待、性暴力などに勇気をもってどう対処していくかを具体的に学び、練習できるように工夫されている。子どもたちと一緒に考えながら、自由な意見や気持ちの発言を取り入れて進めていくプログラムに沿って、最初に正しい意見や間違った意見はないこと、どんな意見も尊重されることを強調し、自分の気持ちを人に伝える、人の気持ちを聴くという練習も行う。また、寸劇（ロールプレイ）を通して、話し合いをしながら、誰もが安心して自信をもって自由に生きる権利をもっていることを学んだ。

## (2) 教職員・保護者向けワークショップの実施

親や教職員や地域の大人等、子どもを支える立場にある人が、子どもの暴力についてきちんとした知識をもつことは、大切である。そのために、「教職員向けワークショップ」と「保護者や地域の人を対象にしたワークショップ」を、平成 23 年 11 月から 12 月に各 1 回計 2 回実施した。

ワークショップでは、社会に広まっている誤った暴力の認識と、これまでは誤った社会通念のもとで子どもたちは孤立させられ、暴力にあいやすいままにされている現状を理解し、ロールプレイを通して、誰もが安心して自信をもって自由に生きる権利をもっていることや、子どもの立場に立って聞くことで子どもの力になることができることを学んだ。

## 4 取り組みの主体や実施体制

本校では、「平和、人権擁護に対する意識の涵養、人権・平和に関する特設授業や研修会等の企画・実践」を目的とした「平和教育・人権委員会」を主体にして、いじめや虐待等の防止に関する人権の涵養の実践的な取り組みを行った。

## 5 結果と課題

「人権意識を育て、家庭内暴力や虐待等への問題解決能力を引き出す」ことを目的に実施した「CAP（自分を大切にすると人権教育、子どもへの暴力防止）」に関するワークショップを通して、1 年生の生徒は、子どもも大人と同じように自由に、力強く生きる権利をもっていることを学んだ。また、自分の考え、意見を大人にいうことの大切さや何か問題が起こったとき、何とか切り抜ける「内なる力」を自分自身が持っていることを学んだ。

今後は、いじめや虐待等の防止に関する人権の涵養の実践的な取り組みを学校の指導計画に組み込み、どのように実践していくかが課題である。

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

生徒は、ワークショップを通して、暴力とは何か、虐待やイジメの問題、異性とのつき合い方などを学習し、「自分たちは大切な権利を持っている」という人権意識について考え始めたと思われる。

生徒へのワークショップの事前に職員の研修もあり、職員も人権意識、特に子どもたちの人権についての理解が深まったと考えられる。実施の効果については、このプログラムを始めて間もないために、よく分からないが、今後、継続的な指導を実施していきたい。

## 5. 実践事例についての評価

初めての試みであり課題も多かった。授業時数確保の問題など職員間での了解を得るのにも困難があった。しかしながら、多様な生徒を多く抱えている本校にとっては、現状を打破するための一つの取り組みとして、実践する意義はあったと思わ

れる。

1学年のみの実施であったので、今後は、学校全体で全生徒を対象にしたいじめや虐待等の防止に関する人権の涵養の実践的な取り組みについて、学校教育全体で年間を通して計画し、その効果を検証することが求められる。

今回は「平和・人権委員会」を中心に企画し実施したが、企画段階でのカウンセラーや養護教諭などのアドバイスを受けるべきであったと思われる。担任の協力は得たが、学校全体を把握し人権が侵されている現場をよく知っているカウンセラーや養護教諭の直接的参加がなかったことは、改善すべき面である。学校全体での取り組みが、まだ足りなかったと思われる。

生徒のアンケートには、「今回、CAPを学んで人権や性的な事の現状が分かりました。これから役に立ちそうなことは使いたいと思いました」「劇をしながら、説明をしてくれたのでよくわかった。一人のとき、自分自身をどう守るのか考えさせられました」「劇あり、時には自分たちも参加して良かった」等の感想があった。生徒の感想は、全体的に好意的であった。保護者向け「CAPワークショップ」を実施したが、参加した保護者は、子どもとのあり方やこどもの人権について、様々な事を学ぶことができ、満足していた。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

沖縄県立真和志高等学校

学校は人権教育を推進する上で、社会教育団体や公的機関をはじめ、各種ボランティア団体やNPO等と柔軟かつ幅広いネットワークを構築することが肝要である。人権教育を進める上で、学校にはない多様な視点を持ち、多彩な手法を講じることができる。

当校では、「平和教育・人権委員会」を設置して、授業の推進はもとより、地域の教育力を活用しながら、教職員や保護者の研修に努めている。研修では、座学による研修等だけでなく、他団体の協力を得ることによって参加体験型の研修を取り入れ、生徒が自分を大切にす実践的行動をとるための支援の在り方について具体的に学んでいる。

このような取組を「平和教育・人権委員会」が核となって一歩ずつ前進させることにより、当校では地域等と連携しながら、一人一人の生徒を大切にす、生徒がもつ様々な課題の解決に向け、一層取組が推進すると考えられる。